

東日本大震災災害活動報告

福島県双葉町消防団 団長 高野 豊実



平成23年3月11日、14時26分、これまで体験したことのない強い大きな揺れが長く続きました。私は仕事でいわき浪江線を走行中でありましたが、強い揺れで走行できず、そのまま停車し、揺れの収まるのを待っておりました。揺れの収まった時点で会社に戻り、直ちに帰路に着きましたが、いたるところで道路が陥没し、やっとの思いで自宅にたどり着くも、散々たる状況にしばし呆然とするばかりでありました。

私の家は、海岸線から6km程西にあり、津波の影響は全くありませんでしたが、海岸部には3つの集落がありますので、津波による被害がどうなっているのか心配で、自転車で自宅から役場対策本部まで向うも、道路がいたる所で陥没しており40分程の時間をかけてようやく辿り着くことができました。

直ちに、現場に向うも、中野、中浜地区の家屋は、津波で全てが流失しており、海岸線から西側に約4km程まで、ガレキ等が押し寄せており、田畑が一面海のような状態となっております。

海岸部の住民はすでに避難しておりましたが、その他の地区の住民も、頻発する余震に備えて各地区の集会所に自主的に避難しておりました。

対策本部会議で、中野、中浜地区等で20名程の行方不明者がいるとの報告を受け、あらためて事の重大さを痛感いたしました。避難中の町民への炊き出しを婦人消防隊、社会福祉協議会の応援を受けて行いました。

午後8時50分、原子力発電所の事故により、



前田地区跨線橋上地震被害



三ノ宮付近津波地震被害



新山地区地震被害



双葉海水浴場入口付近



消防職員・警察による中野地区搜索

半径 3 km に避難指示が出され、翌朝には 10 km 圏内の避難指示が出されました。このことから、防災行政無線による広報とともに各地区消防団による地区内の巡回、避難広報を行ったところではありますが、避難バスが思うように確保できず、又、道路の陥没等により、各地区へのバスの輸送が困難と判断し、マイカーの相乗りにより川俣町への避難を防災行政無線により呼びかけをいたしました。結果として、国道 114 号線、288 号線を利用した避難となり、福島市、川俣町、田村市、三春町、郡山市等に分散しての避難となってしまいました。

その後、埼玉県加須市と二次避難先のホテルリステル猪苗代に移動し、現在に至っております。

地震、津波による被害も甚大で、20 名程の行方不明者がいたにもかかわらず、何もでき

ないまま避難しなければならず、消防団としての使命を果たすことができなかつたことが非常に残念でなりません。

しかしながら、消防団員からは一人の犠牲者も出なかつたことが幸いであります。

今回の地震、津波そして原子力災害という最悪の事態に遭遇し、改めて危機管理の重要性を認識した次第であります。

現在、双葉郡 8 町村は、それぞれ避難生活を送っております。すべての町民が一日も早く町に戻り生活できることを心より望みながら、厳しい避難生活に耐え頑張っております。

最後に、今回の災害で避難所を提供していただきました、県内各地の皆様をはじめ、ご支援、激励をいただきました全国の皆様へ、大変失礼ではありますがこの誌上をお借りし、心より御礼申し上げ活動報告とさせていただきます。



前田地区地震被害



中浜地区津波被害